

一 般 質 問 要 綱

令和5年第7回9月定例会

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
1	1	渡 部 忠 寛	1 高郷町の不審火対策について 高郷町では20年以上に渡り度重なる不審火による被害が相次いでいる。私が確認している範囲では、今年に入り5月に1件、7月に3件と空き家等での不審火が発生している。人的被害はないものの、火災現場周辺の農作物等の実被害が出ていると聞いている。地域住民は日々戦々恐々としており、消防に関わる方々の労力は非常に大きい。同町の不審火は火の気のないところから多く発生しており、放火の可能性が高い。今後も発生する可能性が懸念されることから、早急な対策が必要であると地域の住民は強く望んでいる。 よって、次の3点についてお伺いする。 (1) 喜多方市及び広域消防はこの現状をどのように捉えてきたのか。また、現在までにどのような対策を取ってきたのか伺う。併せて、不審火の内訳として、合併後把握している初回発生日、発生頻度が高い場所・時間帯・時期についても伺う。 (2) 現行はパトロール強化を行っており、市は現在、3台の防犯カメラの設置などの対策を講じているが、十分な効力を発揮できていると考えるのか伺う。 (3) 市は関連機関との連携や協議をどのように行っているのか伺う。 2 通学路等の安全性について(歩道、横断歩道及び街灯等) 横断歩道の白線が薄くなっている箇所があり、テクノアカデミー会津校庭西側及び河川敷T字路の横断歩道の白線が薄くほとんど見えない。この場所は横断する地域住民が多く、子供たちの通学路にもなっており危険だという声を住民の方から聞いている。 また、先日喜多方第二中学校3学年全体で行われた授業参観では、子ども議会に関連した模擬請願の授業を行った。その際に、生徒達の意見として通学路の街灯の少なさや不整路(押切体育館や球場周辺)について多くの声があった。出席した保護者からも、秋から春にかけて帰り道における暗所での転倒や犯罪等を不安視している声が聞かれている。 他の地域住民からは、通学路が狭いことによる歩道の拡幅やグリーンベルトの設置、事故防止のためのカーブミラーまたは車両一時停止線等の設置を求める声も聞いている。 よって、関連した以下の4点についてお伺いする。 (1) 市内の横断歩道や道路標識(看板も含む)が薄くなり見えかかっている箇所があるが、市の把握状況を伺う。 (2) 市の画像投稿システムの運用状況と修理等依頼箇所の改善状況について伺う。 (3) 市内全域の通学路における暗所時の通学路等の照度が十分なのか、市の認識を伺う。 (4) 塩川町御殿場地内の私有地に設置されていたカーブミラーについて撤去された場合、代替えの方法をどのようにとっているのか伺う。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
2	20	齋 藤 仁 一	1 マイナンバーカードの現況と今後の対応について (1) 市内マイナンバーカードの年代別取得数及びその割合はどうなっているのか。また、マイナ保険証とすべて紐付けされているのか伺いたい。 (2) 市内におけるマイナンバーカード及びマイナ保険証トラブルはどうなっているのか。また、その対策は講じられたのか伺いたい。 (3) トラブル発生後の返納はあったのか、あるとすればその理由は何か伺いたい。 (4) 市長は、共同通信社が行ったマイナンバーカード普及に関するアンケートにどのように答えたのか。また、その具体的対応策について伺いたい。
			2 喜多方市立小中学校適正規模適正配置第1次実施計画（案）について (1) この第1次実施計画（案）について、総合教育会議、教育委員会及び適正規模適正配置審議会では、どのような意見が出され、どのような協議の上計画案がまとめられたのか伺いたい。 (2) 昨年7月に示された地域別計画（案）について、どのような総括がなされ、今回の第1次実施計画（案）になったのか伺いたい。 (3) 第1次実施計画（案）に示されている適正規模適正配置にあたって配慮すべき事項の対応について、具体的にどう対応するのか伺いたい。
			3 観光政策について (1) 日中線しだれ桜並木、三ノ倉高原ひまわり畑の入り込み客及び協力金はどのようになったのか伺いたい。 (2) しだれ桜並木の木の手入れも含めた維持管理はどのようになっているのか。また、民間団体もしだれ桜延長の取組をしているが、市との連携はどうなっているのか伺いたい。 (3) 「食事がおいしい市町村ランキング」で喜多方市は2020年4位、2021年8位となっているが、市はこのことをどう分析し、今後どう活かそうとしているのか伺いたい。 (4) 教育旅行について、受入団体数及び人数、事業内容について伺いたい。また、市の具体的な働きかけ、受入体制等の対応策について伺いたい。
3	6	十二村秀孝	1 水田農業の在り方について 令和5年産米の生産は、肥料価格の高騰など生産コストが高止まりし、農家経営を圧迫しました。米価はコロナ禍で低迷した業務需要も復調傾向にあり、一部報道では回復する見方が強まっていると言われております。 そこで、次の2点について伺います。 (1) 需要に応じた米生産について ア 令和5年産米の需要に応じた米生産の取組をどのように総括しているのか伺います。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			イ 福島県産米（会津コシヒカリ、福島県産ひとめぼれ、福島県産天のつぶ）の平均相対取引価格の過去 3 年間（令和 2 年～ 4 年産）の推移について伺います。 ウ 令和 6 年産米の生産に対する基本姿勢について伺います。 (2) 福島県ブランド米「福、笑い」の生産について ア 本市における令和 5 年産「福、笑い」の生産者数、生産面積について伺います。 イ 県における「福、笑い」生産・販売方針について伺います。 ウ 本市における「福、笑い」生産振興の考え方について伺います。
			2 旧喜多方東高校の跡地利用について コンピュータ理工学専門大学である会津大学が開校した以降、会津若松市では、「スマートシティ会津若松」の取組を開始できる人材が育ち、大学発ベンチャーの創出や I C T 関連企業の集積が進むなど、大学が育てた人材が活躍できる場が少しずつ整備され、大学の存在が地方創生の実現の一助となっているものと考えております。 一方、会津地方には会津大学などの高等教育機関が存在するものの、学部・学科が限定的であるため、高等教育を受けたいと望む子供たちの多くが地元を離れざるを得ない状況にあり、この結果、進学等を機に都市部へ流出し、その後地元に戻らないことが人口減少や地域が活性化できない大きな要因の一つであると考えます。 そこで、次の 3 点について伺います。 (1) 過去 3 年間における地元から会津大学に進学した男女別の人数と割合について伺います。また、会津大学への地元進学率の現状についてどのように捉えているのか伺います。 (2) 会津大学開校の効果をどのように捉えているのか伺います。 (3) 本県観光の中心は豊かな資源を有する会津地方であり、その強みを活かして本県の復興・創生のエンジンとしても期待できることから、その源となるグローバル人材の育成を図るため、会津大学に国際観光学部を新設し、そのキャンパスとして旧喜多方東高校跡地を活用するよう県に対して強く要望すべきと考えますが、市の考えを伺います。
4	21	山 口 和 男	1 山都工場可燃ごみ処理施設の老朽化に伴う現状と今後の取扱い方針について (1) 喜多方地方唯一の一般廃棄物可燃ごみ処理施設は、平成 3 年 4 月の稼働時から 32 年が経過し、その間、ダイオキシン対策に伴う平成 12 年度から平成 13 年度の大規模改修から 22 年が過ぎ、老朽化と機能低下が進んでいると言われる中で、施設の延命化や新設・建替え工事等の話も聞こえてきますが、その取り扱い方針について、市としては広域市町村圏組合の考え方をどのように捉えているのかお伺いします。 また、建替えならば、現在広域市町村圏組合のごみ処理施設に限っては、ダイオキシン対策改修時の 2 億 5, 100 万円ほどの組合債が

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			ありますので、この借金を繰上げ償還する取組を優先し、その後に新設ごみ処理施設に舵を切るべきと考えますが、市長の見解を伺います。 (2) 建替えとなれば、規模や設置箇所はどうなるのでしょうか。市として把握している点についてお聞かせください。規模を示すなら令和3年9月の「喜多方市カーボンニュートラル宣言」との兼ね合いが重要視されなければならないと思料されますので、市としての考え方を伺います。 また、本市では脱炭素社会の構築を目指し、循環型社会の形成に向け3Rの徹底に取り組むとしており、2030年の温室効果ガスの排出量を2013年と比較して46%削減する目標を設定しました。その目標に向けた市の取組の現状と、目標達成への見通しについて伺います。 (3) 広域市町村圏組合では、羽山の最終処分場の整備を進めるとして、令和5年度に基本設計、6年度に実施設計、7年度に建設工事に着手し、10年度に供用開始として進めています。現在稼働している可燃ごみ処理場を令和10年度以降どうするのか、またごみ処理方式及び事業手法の選定や、必要な各種調査業務及び設計業務等を実施すると聞き及びますが、これらの問題を検討するに当たり、管理者である市長は検討委員会を設置したと承知していますが、この委員会の議論の進捗状況とそこから見えてきた方向性について、市として把握している点を伺います。 なお、ごみ処理方式及び事業手法の選定と必要な各種調査業務とは、RPF製造による再生可能エネルギー仕様で熱を加え圧縮し、いわき市のいわき大王製紙に固形燃料として使用していただく、循環型社会構築に挑戦する民間企業の取組と理解してよろしいか、市としての見解を伺います。
5	5	山 口 文 章	1 野生鳥獣被害対策について 全国でも鳥獣被害は大きく問題になっています。全国の農作物被害金額は約155億円になっております。被害金額だけでなく営農意欲の減退や、それによる離農なども増加しており、金額で表せない難しい被害も含めると依然として鳥獣被害は大きな問題になっています。喜多方市においても、毎年鳥獣被害が多く発生しておりますが、各対策を有効的に実施していると思います。 そこで、本市での鳥獣被害状況、及び対策の内容・効果について伺います。 (1) 今年度の熊・イノシシ・猿など、有害獣の市内での出没確認数と捕獲数について伺います。また、過去3年間での出没数、捕獲数の推移はどのようになっているか伺います。 (2) 今年度の熊・イノシシ・猿など、有害獣の市内での農作物の被害面積、被害金額について伺います。また、過去3年間での被害面積、被害金額の推移はどのようになっているか伺います。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(3) 本市の今後の被害対応・対策について ア これまで実施してきた各種対策について伺います。 イ 対策の効果について伺います。 ウ 増加している農作物の被害と獣種について、あれば伺います。 エ 鳥獣被害対策のICTを活用した取組について伺います。 2 自転車用ヘルメット着用努力義務化について 今年4月1日から、改正道路交通法の施行により、すべての自転車利用者のヘルメット着用が「努力義務」となりました。警視庁の発表では、着用率が4月から上昇しているそうですが、自転車に関連する事故で亡くなった人のうち、約9割はヘルメットを着用していないというデータもあり、まだまだ着用率をあげていく必要があるとのことでした。 自転車用ヘルメット着用努力義務化に伴う市の対応について伺います。 (1) 自転車用ヘルメット着用努力義務化に関する市の認識について伺います。 (2) 努力義務化の普及啓発に関する市の取組について伺います。 (3) 本市の自転車用ヘルメット着用はどの程度進んでいるのか、また職員等のヘルメット着用の状況について伺います。 (4) 自転車用ヘルメット着用促進のための購入費に対する市の助成制度について伺います。 3 小中学校各種対応について 過去の一般質問で、市内小中学校における様々な課題について質問してきました。その中で、防犯カメラ、通学支援の2点について伺います。 (1) 市内小中学校の防犯カメラについて伺います。 ア 各学校の設置状況と運用状況について伺います。 イ 設置後の問題点、課題点などありましたら伺います。 (2) 中学校での冬期間の自転車通学不可による通学支援について、検討を進めていると思いますが、現在どのような進捗状況か伺います。
6	19	佐原正秀	1 地域に活力を生み出すまちづくりについて 地域を活性化させるため、各自治体は様々な手段を使ってヒト・モノ・カネを呼び込む施策を行っておりますが、そこで重要になりますのが、まちににぎわいを生み出していくためのインフラ整備や、ビッグデータの活用、デジタル商品券・ポイント還元サービスの推進といった、地域に資金を循環させていくような仕組みづくりであります。 また、地域の生活をいかに守るかであり、その取組が重要となり、対策を進めていくことが求められますが、本市の対応についてお尋ねいたします。 (1) デジタル商品券・ポイント還元サービス推進について (2) 街路樹の管理及び伐採処理対策について

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(3) 森林をドローンとA Iを活用した脱炭素化事業の可能性調査について (4) 認知症予防による健康寿命の延伸について
			2 新たな農業形態の指導体制について 消費者が支える農場、あるいは都市型の有機農業・コミュニティー形成の新たな農業形態であるC S A（地域支援型農業）は、世界のソーシャルグッドなアイデアと言われており、1980年代に米国で始まり、欧米を中心に広がっている。 地域にもたらす効果は多様で、消費者に農業体験・交流の場を提供し、環境と健康に配慮した農業にも寄与する。農家と消費者のコミュニケーションを促すことで、コミュニティーの形成につながる、小規模農家・家族経営農家や移住者等に向く仕組みと言える。 多様な人材の参加がファンを生み出し、担い手農家の誕生へと導くと言われており、これらは新たな農業形態であり、地域支援型農業と思われ、指導体制を強力的に進め、農業の活性化を図るべきと考えるが、市の対応についてお尋ねいたします。 (1) 多様な人材を担い手に導く対策について (2) 肥料高騰打撃突破へ稲作農家の肥料作物と養蜂業者連携活用について (3) 新たな自治組織による地域再生の取組について (4) 農業分野のデジタル活用について (5) 4パーミル・イニシアチブの取組指導体制について
			3 本市の当面する課題と対応について ここ数年、限界集落問題が話題から取り残されてきております。農村漁村地域や中小都市のみならず、大都市圏地域においても、今後数年には人口減少が顕著な傾向になることは周知のとおりであり、それに伴い空き家率は過去最高となってきております。 過疎法が1970年に制定され約50年以上が経過しており、この間人口減少の問題に向き合ってきたと言えます。過疎にあらがうように、様々な施策が展開されてきておりますが、結果として人口減少はとどまることなく、ほぼ人口推計どおりに推移してきております。 こうした状況の中で、本市、農山村集落の未来をいかに展望するかが大きな課題であり、住みつなげる集落をつくり、交流・移住・通いで生き抜く対応が求められますが、これら対策についてお尋ねいたします。 (1) 空き家再生と有効活用について (2) 少人数で生き抜く地域づくりについて (3) 鳥獣捕獲対策について
7	7	遠 藤 吉 正	1 放課後児童施策について 平成30年9月に、全ての児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、放課後児童クラブと放課後子ども教室の両事業の計画的な整備等を推進するため、国では「新・

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			放課後子ども総合プラン」を策定したが、今年6月に発表した全国での放課後児童クラブの待機数は1万6,825人となっている。このような状況で本市の現状及び取組状況について伺う。 (1) 本市での放課後児童クラブの現状について ア 現在の本市での放課後児童クラブ待機数について伺う。また、昨年度と比較した待機児童の推移について伺う。 イ 市として、この状況をどのように捉えているのか。また、今後の対応策について伺う。 ウ 放課後児童クラブにおける、夏休み等期間中の食事の提供について伺う。 (2) 本市における放課後子ども教室の取組状況について伺う。 (3) 新・放課後子ども総合プランの推進について、本市ではこのプランを推進するために、教育委員会と福祉部局が連携を図りどのような取組を行っているのか伺う。
			2 観光施策について 9月から11月末まで開催される「福が満開 福のしま ふくしま秋観光キャンペーン 2023」がスタートしたが、このキャンペーンは単なる観光キャンペーンではなく、コロナ禍で厳しい状況での本市観光の再構築とともに、今後の観光振興のチャンスと捉えてしっかりと観光戦略を持ち取り組むべきとの考えから伺う。 (1) ふくしま秋観光キャンペーン 2023 の取組について ア 本市が期間中取り組む事業内容について伺う。 イ 推進体制について伺う。また、どのようなPR施策に取り組むのか伺う。 ウ キャンペーン実施により本市が期間中目標とする入り込み数及び経済波及効果について伺う。 エ 本市観光施策について、このキャンペーンを機に今後観光施策にどのような戦略で臨むのか伺う。
8	13	後 藤 誠 司	1 高郷町の不審火対策について 近年、高郷町において不審火が続いております。今年に入り市道沿いの山林や法面、空き家等6件の火災が頻発したところです。地域住民の方々も不安な気持ちで過ごしております。 そこで、不審火対策について以下の点を伺います。 (1) 今年高郷町で発生した6件の火災原因を伺います。 (2) 不審火への対応を伺います。 ア 防犯パトロールの状況について イ 消防団の夜警活動について ウ 防犯カメラの設置状況について エ 協働のまちづくり推進事業補助金を活用し、防犯カメラを設置する場合、「前回より7年を経過しないと申請できない」という募集要項の柔軟運用ができないか伺います。 (3) 8月9日に実施した「喜多方市高郷町地域の安全安心を守る住民

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			の会」の内容について伺います。 (4) 地域住民への注意喚起について伺います。 2 全国市町村交流レガッタ喜多方大会について 令和8年に開催が予定されている全国市町村交流レガッタ喜多方大会に向けた取組について、以下の点を伺います。 (1) 県営荻野漕艇場の改修について伺います。 ア 第一艇庫、第二艇庫の改修について イ コース整備について ウ 栈橋について (2) 設備の更新について伺います。 ア 艇の更新について イ オール等用具について (3) 選手団、応援団の控え場確保について伺います。 (4) 運営スタッフの確保について伺います。
9	12	渡 部 一 樹	1 副市長2人制について 副市長を2人体制とすることで一層の施策の充実強化を図るべきと考えるが、市長の見解について伺いたい。 2 喜多方市ふるさと振興株式会社について (1) 会社運営における課題は何か伺いたい。 (2) 役員体制の強化について考え方を伺いたい。 (3) 指定管理委託料をはじめとした多額の税金が会社へ投入されている。今後、新たな会社の在り方と、市との関係性を整理する時期にあると考えるが、見解を伺いたい。 3 ふるさと納税の充実強化について (1) 令和4年度の実績と寄附の状況等から市の課題は何か伺いたい。 (2) 近隣町村よりも寄附額が少ない状況にある。財源確保策の一つとしてしっかりと取り組むべきである。今後のふるさと納税強化の具体策について伺いたい。
10	3	坂内まゆみ	1 熱中症対策について (1) 連日の猛暑で熱中症が原因で救急搬送されるケースや、最悪の場合、お亡くなりになるケースが見受けられましたが、本市の予防法や対策法についてどのように周知をしているのか伺います。 (2) 熱中症の重症化を防ぐには、予防とともに早期発見が必要です。暑さが感じにくい高齢者の場合、民生児童委員や地域包括支援センター、行政区長などと連携した見守りや見回りといった対応が早期発見につながると考えますが、市の見解を伺います。 (3) 一人暮らしの高齢者や高齢世帯だけでなく、日中一人になる高齢者や障がい者への見守りや見回りも必要と考えます。しかし、市がすべてを把握するのは難しく、民生児童委員の訪問、行政区内での声掛けが重要となってくるものと思います。民生児童委員や行政区長などとの連携や指導はどのように行っているのか伺います。 (4) 教室にはエアコンが設置されていますが、こども園や小中学校に

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			おいては、屋外での活動もあり、熱中症になるケースがあります。子供の場合は、大人よりも熱中症になりやすく、具合が悪いことをすぐに伝えられない場合があると思われませんが、本市として、こども園や小中学校での熱中症がどのくらい報告があったのか伺います。また、熱中症への対策はどのように行っているのか伺います。 (5) 高齢者にやさしい住まいエアコン設置助成事業は、今の時代からすると、対象となる条件が厳しく、助成金額の上限が低いと考えます。事業構築した時代から今までで、どのような制度見直しをしたのか経過を伺います。また、今後、条件緩和や助成金額の上限を見直すことを検討するのか伺います。 2 防災対策について (1) 災害が起きた際は、消防などと連携しながら市職員が災害対応に当たるべきと考えます。本市の防災体制や緊急時の職員の連絡体制についての組織化はしっかりとされていることと思いますが、職員一人一人の役割について明確になっているのか伺います。 (2) 昨年大雨による災害時に、招集に応じた職員が少なかったと聞き及んでいますが、その理由と今後の対策について、今改善に向け取り組んでいると思われませんが、進捗状況について伺います。 (3) 昨年の災害の際、自主避難を促した相川地区のケースに見られるような地域の中での自主防災が人的被害を防ぐ鍵となります。行政区や消防団、民生児童委員と連携した自主防災組織の結成を進めていく必要があると思われませんが、推進状況を伺います。 (4) 自主防災組織は結成しただけでは意味がなく、災害時に機能できるよう普段から家庭状況の把握や危険箇所の確認、避難場所の確認をすべきだと思います。自主防災組織結成後の指導や助言、研修などはどのように行っているのか伺います。 (5) 現在、自主防災組織が結成されている先進地区の事例発表などを通して、まだ組織されていない地区へ広げていくべきと考えますが、市の見解を伺います。 (6) 防災意識や共助意識は、子供のころからの教育を通して、育まれると考えますが、小中学校などへの啓蒙活動はどのように行っているのか伺います。
11	9	小 島 雄 一	1 災害対策について 昨年8月3日から4日の豪雨災害から13カ月が過ぎ去りました。この間、多くの議員により様々な審議がなされてまいりました。既に待望の災害対応検証報告書が提出されたところですが、その内容は分かりやすく、要点をついていてと評価いたします。しかし、問題はここで示された「今後取り組むべき対策と取組時期」の内容がどのように果たされていくのかということである。 そこで、以下の質問をする。 (1) 平時からの避難場所、避難経路等の周知と訓練が重要であるというが、具体策を伺う。

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			(2) 洪水害に対する避難情報発令判断基準策定をどうするのか、特に塩川町内の内水氾濫避難の具体的発令基準を示してほしい。 (3) 防災行動計画（タイムライン）の見直しはどうするのか伺う。 (4) 災害時孤立が予想される地区への対策を伺う。 (5) 塩川町内の浸水被害について、市、県、国が協力して対応する必要があるとなっているが、国、県においてその必要性を認識しているのか。また、その具体策を伺う。 (6) 流域治水対策を伺う。 ア 阿賀川、日橋川の排水能力の向上について イ 姥堂川の危険性の認識と分水工事の必要性について ウ 田んぼダムの活用について (7) 割田橋の価値と改修予定について伺う。
			2 塩川町の西岡共同墓地について (1) 墓地の区画数、面積等、概要を伺う。 (2) 管理体制はどうなっているのか伺う。また、管理されずに荒廃している区画がどのくらいあるのか伺う。 (3) 管理委員会のような自主組織が必要と思うが、考えを伺う。
12	4	高 畑 孝 一	1 鳥獣被害対策について (1) 最近の鳥獣被害は里山の耕作放棄地増大とともに増えていますが、実施隊員は、監視や捕獲活動という極めて大切な任務を負っています。令和4年度から実施隊の報酬が改定されましたが、隊員の受け止めについて伺います。 (2) 実施隊の隊員数動向について、令和3年度から今年度までの状況についてどのように分析されているか、また、継続した体制維持のために何が必要か伺います。 (3) 実施隊と市との意見交換、情報交換、講習会等は平常時から緊急時までの対応について不可欠だと考えますが、どのように実施されているか伺います。 (4) 同様に、実施隊のパトロール地区やわな設置地区と当該地域の行政区との連携は極めて大切なものと考えますが、どのような体制か伺います。また、実施隊活動中と分かるステッカー等を車に貼付してはいいかがか伺います。 (5) 鳥獣の出没や被害があった場合、その経過、概要、特徴点、反省点などを、最低でも同様に危険が予想される地区や関係機関、関係者に対し、速やかに周知を図るようにし、全体の災害対策意識アップと教訓化を図るべきと考えますが、どのようにされているのか伺います。 (6) 電気柵による鳥獣被害防止は一定の効果があがっているようですが、今年度からの補助金削減はこの取組にブレーキをかけています。改定前の補助率にされるとともに、領収書の添付が前提となっていますが、これの改善を図りたいが、いかがか伺います。
			2 地区集会所の水道料金について

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			各行政区では、多くの公的分担金や諸団体等への補助・人足等を含め必要経費を捻出するため、各戸から内割金を徴収して対応しています。現在、少子高齢化が進み、地区を維持していくことは容易ではありません。地区集会所の維持管理も同様です。集会所の水道料は毎月請求されますが、市の水道であることに鑑み、料金免除が可能と考えますが、いかがか伺います。
13	8	菊地とも子	1 ラーメンのまち喜多方のPR事業について (1) 「喜多方ラーメンの日」の事業について ア 「喜多方ラーメンの日」登録後の事業内容と効果について イ 今後の取組について (2) 「極上の喜多方ラーメン」リブランディング事業について 2 児童虐待防止対策について (1) 児童虐待の現状と対策について (2) 「オレンジリボン運動」の取組について (3) 「レジリエンス教育」の取組について (4) 「ペアレント・トレーニング」の取組について
14	15	齋藤勘一郎	1 災害復旧について (1) 農地・農業用施設の未受注工事について 国の重要変更や詳細設計が必要な箇所について、どのような内容なのか伺う。 (2) 林業施設の未受注工事について (3) 市単独補助事業による復旧工事について 完了率の低い地区への対応について伺う。 (4) 収入補填支援事業について 2 主要地方道喜多方西会津線小舟寺工区の改良工事について (1) 令和4年度において、現地測量や地すべり対策等の調査設計を実施とのことであったが、どのような内容であったのか伺う。また、そのことを踏まえて、今年度の事業計画について伺う。 (2) 今後の改良工事計画について、どのように進められるのか、1日でも早い着工と完成を熱望しているが、今後の見通しについて伺う。 3 河川の復旧工事について (1) 令和4年8月3日、4日の豪雨災害により、特に被害の大きかった山都地区の各河川の護岸復旧工事について、工事箇所数はどのようなになっているのか伺う。 (2) この復旧工事の期間としてどの程度を要すると見込んでいるのか伺う。 (3) この豪雨により堤防から越水し、県道が一時通行止めとなった所があったが、この対策についてどのように計画するのか伺う。
15	2	田中修身	1 熱中症から高齢者等を守るための「クーリングシェルター」の設置について 改正気候変動適応法の来春施行を前に、誰でも利用可能な避暑スぺ

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			ースとして全国の自治体で導入が広がっています。熱中症から市民（特に、高齢者等）を守るために「クーリングシェルター」を設置することを求めます。市長の考えを伺います。 2 小中学校の統廃合問題について 地域説明会資料の10ページ、第1次実施計画の対象等の(3)「次期実施計画の考え方」には、「第1次実施計画の対象とならなかった学校については、次期実施計画の策定に向け、下記の視点を参考に再編案の検討を継続することとします。」となっています。 このことは、第2次、第3次と少なくとも数年間は続くということの意味します。子供や保護者の不安が今後も続くということです。「再編案の検討の継続」はやめることを求めます。市長の考えを伺います。 3 マイナンバーカードと健康保険証の一本化について (1) 共同通信が全国の市区町村長に実施したアンケートで「マイナンバーカードの交付やマイナポイント申請支援などの事務負担をどう感じているか」という問いに、市長は「重い」と回答しています。「重い」と感じた具体的な内容について伺います。 (2) 同じくアンケートで「保険証廃止」について、市長は「保険証廃止を延期すべきだ」と回答していますが、その理由を伺います。 (3) マイナンバー総点検を実施して、本市においては、ひも付けにミス等は確認されていますか、伺います。 (4) マイナンバーカードは任意のものです。市民は健康保険への加入と保険料の支払いを義務づけられ、保険証は自治体や保険組合などが責任を持って交付する仕組みです。マイナンバーカードを持たない人は「資格確認書」が交付されるそうですが、国民皆保険制度の変質です。この矛盾をどう考えますか。市長の考えを伺います。 (5) 命に関わる健康保険証は、その廃止をやめ、存続することが、一番の解決策と考えますが、市長の考えを伺います。 4 国民健康保険制度の均等割について (1) 国保会計における、子供（0歳から18歳）の均等割に係る総額は幾らですか、伺います。 (2) 高過ぎる国保税の負担軽減は、市民の命と健康を守るために必要です。子供が多いほど負担が重くなる子供の均等割を廃止し、市民を応援すべきです。市長の考えを伺います。 (3) 国による一兆円の財政投入を強く求めてください。市長の考えを伺います。 5 全国学力・学習状況調査における結果の公表について 学力とは、児童・生徒一人ひとりのもので、平均を上げるためのものではありません。市全体の調査結果について、平均正答率を数値で知らせることをやめることを求めますが、考えを伺います。
16	10	矢 吹 哲 哉	1 アルプス処理水（汚染水）の海洋放出について (1) 遠藤市長の見解とその理由を伺う。 (2) 国と東京電力が県内漁業者（県漁連）と2015年に約束した「関

通告順	議席番号	質 問 者	質問事項及び質問要旨
			係者の理解なしには放出しない」が守られていないと思うが、遠藤市長はどのように判断しているのか伺う。
			2 昨年8月3日の大雨による災害対応の検証結果について (1) 被害発生状況が時系列的に報告されていなのはなぜか伺う。また、自主避難集落（藤沢集落等）の対応を時系列的に伺う。 (2) 同時に被害があった集落（冠水等）の状況は、対策本部でいつ把握したのか伺う。 (3) 今後の防災・減災対策にいかす具体的取組について ア 直ちに取り組むハード・ソフト対策について伺う。 イ 中長期的に取り組むハード・ソフト対策について伺う。
			3 少子化対策と小中学校の適正配置について (1) 第一次実施計画（案）説明会で出された意見、要望はどのように実施計画に反映されていくのか。また、検討された案は今後どのようなスケジュールで決定されていくのか伺う。 (2) 保護者、住民の合意の下、決定するとしたが、具体的な判断は誰が行うのか伺う。 (3) 少子化がコロナ禍の下で加速している。これにストップをかけ、少子化を減速させる取組・対策をとるべきと考えるが、市長の見解を伺う。 (4) 抜本的対策を今、明確に示さず、小中学校適正配置計画を進めるならば、より急速に少子化と過疎化が進むと考えるが、市長の見解を伺う。